

検査の基準などについて①



【図1】基準範囲定義の概念図



【表1】検査の偽陽性、偽陰性

		疾患	
		あり	なし
検査	陽性	陽性	偽陽性
	陰性	偽陰性	陰性

皆さんのが健康診断を受けた、あるいは病院で検査をした時は、検査の結果が返ってくるとと思います。例えば、コレステロールが高かったとか、血圧が低めだったとか。これら、高い低い、あるいは陽性(+)、陰性(－)などの結果は、当然ながらある一定の基準に沿つて判定されたものであり、そもそも基準がなければ判定すらできません。今回お話を「基準」などについて、できるだけ簡単に説明していくたいと思います。

臨床検査技師 高橋 桃子
徳を
一基満算
囲」と比較す
ることによ
り、医師によ
る病態把握や
治療方針の決
定などに役立

この基準範囲ですが、実は施設ごとに基準範囲が異なっているという問題があります。各施設の事情による固有の基準範囲、検

を数字で
きない定
査、ずい
容となり、
定性検
やキット

表すことができる。
性検査と、
て表す定量
ぶん異なる
ます。

紙、内量検査がでます。うに用いること現在の00%当は陰陽性

言葉では簡単
忘れますが、実際の臨床検査では、正しい結果を出すことは不可能で、陰性なのに結果が陽性となる（偽陽性：間違

性は、病理検査（体液）一部分から採取した胞や、病変の一部を連が本得言葉もあります。疑い陽性（**は1性**）といいます。性と同じ読み方の疑い性（**は1性**）といいます。